

三田 昔の武庫川・今の武庫川

第 190 回 武庫川エコハイク

2023. 3. 11 エコグループ・武庫川

武庫川 全長 65km、流域面積 500km²・丹波篠山市、能勢町、三田市、神戸市北区、西宮市、宝塚市、伊丹市、尼崎市の 7 市 1 町を流域に持ち県内有数の人口・資産を抱える 2 級河川である。武庫川の名は下流の右岸が武庫郡であり、武庫郡は日本書紀にある「務古水門(むこみなと)」からとか、浪速から見て「向こう」にあるからとか諸説がある。本川の源流は丹波篠山市にある。丹波篠山市から三田盆地までは緩やかな傾斜であるが、道場を過ぎると武庫川渓谷の急流となる。

三田 7世紀後半創立の金心寺(こんしんじ)門前町。金心寺の「三福田」から「三田」になったという。南北朝時代に赤松氏、戦国時代に荒木氏、山崎氏の支配下になり、江戸時代に入り有馬氏、松平氏を経て、17世紀前半に九鬼氏が廃藩まで 240 年間統治した。丹波街道沿いの宿場町。**三田市**は兵庫県南東部、六甲山地の北側に位置しかつては田園風景の広がる典型的な農村の模様を呈していたが、1980年代からの大規模住宅団地の開発と、JR 福知山線の複線電化の利便性向上により大阪、神戸の衛星都市として急激な発展を遂げた。今日では農村と都市の二つの顔を併せ持つ田園都市となる。瀬戸内海式気候に属すると言われるが、内陸部に位置するため気温の寒暖差は比較的大きい。市内の標高最高地点は峰山の697m、最低標高地点は 116m であり、市内の北部や東部は山岳地帯である。2022年の推計総人口 106,694 人。

桑原・欣勝寺 10世紀末に多田源氏の粗源満仲の開創された寺といわれ、雷除けで有名。寺には大蛇の頭骨が残されているがこれは女の業が大蛇になり裏山の池に住んでいたのを高僧が説得され成仏し頭骨が残ったという。

くわばらくわばら欣勝寺(伝承) 雷の子どもがこの寺の井戸に落ち、「助けてくれ」というのを和尚は日ごろから雷に迷惑をかけられているので、二度と桑原に雷を落とさないように約束させて帰した。これ以降、「くわばらくわばら欣勝寺」といえば雷は落ちなくなったという。

桑原の耕地整理 もともと武庫川沿いの地区は湿地帯であったという。明治 40 年代初めに桑原地区で耕地整理が行われ美田に変わった。記念碑が欣勝寺前にある。

桑原・感神社 素戔鳴尊を祀る。京都八坂神社から分霊したと伝えられる。桑原の氏神。

桑原ときゅうり(伝承) 感神社の紋所は八坂神社と同じ木瓜(もっこう)紋。桑原ではきゅうりを食べると祟りがあると言われ、食べなくなり、作りもしないという。

下田中の旧武庫川跡 かつての武庫川は三田盆地を大きく迂回しながら流れていたが、度重なる洪水の被害から守るため、昭和 50 年代に河道を直線化し堤防を強化した。地形図や航空写真から昔の武庫川の姿が浮かび上がってくる。

神明寺と神明神社 この下田中地区は古くは伊勢神宮の神領地であったため、神明寺と神明神社がある。

立石城跡 神明寺と神明神社の旧河川を挟んだ裏山には荒木村重の時代に、山崎左馬之介の立石城があった。

本町通り 商家が並んでいた道、丹波街道でもある。**札場の辻**に「**三田町道路元標**」がある。

三田はんまち交流館「緑」 本町通りにある古民家を改造した民設民営の多目的交流スペース。秤屋を営まれる中西氏が町の活性化のために一般に開放されている。

陶祖内神屋惣兵衛旧宅 内神屋は米屋で豪商。家業以外に陶器窯元となり三輪山に窯を築き陶工内田忠兵と共に衛青磁の研究を始め、京都の名工欽古堂亀祐を招き中国青磁を凌駕する作品を完成させた。

車瀬橋 三田市で最も古い橋。18世紀末に描かれた「摂津名所図会」に「車瀬の蛸見」がある。「車瀬」この辺りで車の両輪のように瀬があったからという。今の橋は昭和 59 年架橋のもの。

一乗寺跡 かつて一乗池があった、この辺りは堤防の決壊がよく起きる「正宗堤」があり、犠牲者が多く出てこれを弔うため一乗寺が建立された。今は一乗寺公園となって、一乗寺地藏尊が祀られている。まんねん橋の欄干が残されている。

お旅所 三輪明神のお旅所。神社の祭礼において神(神輿)が巡行の途中休憩宿泊する場所。

三輪村道路元標 国道 176 号線を渡った所に石鳥居があり、その下に旧三輪村の道路元標がある。大正年代に全国に一斉に作られた。

三輪神社 14世紀前半の建武のころ領主松山弾正が神社尾裏の山に茶臼山城を築き三輪一帯を治め、大和の三輪神社にならい三輪神社を創建した。三田藩主九鬼氏も深く崇敬した。

三田市立三輪明神窯史跡園 三田青磁等の三田焼は、18 世紀の半ばから三田地で焼かれ始め、この明神窯では江戸時代後期から昭和 10 年頃まで焼かれていた。1 号窯は県指定文化財。

宮水 三輪明神の宮水は丹波街道に面してある湧水。大きな水場がある。かつては飲料水として利用されていた。

行基の足跡 武庫川の治水の事跡が残されている。福島大池、行基堂、松山堤など。「川除(かわよけ)」の地名はこれから出たものか。

川除の井戸 16世紀半ば赤松氏に追われた**松山氏**がこの井戸に隠れ難を逃れたが、その井戸の中から黄金の仏像を拾い上げたことから以後松山氏は「福井」姓に改姓したという。

御殿橋 もともと旧武庫川にあった御殿橋(おとのぼし)は付け替えられた武庫川に架けられた。元の御殿橋は九鬼の殿様が川除の豪農福井家に行かれる時だけに使われたという。

松山堤 僧行基がこの辺りの治水のため築いた武庫川の堤防、松山氏が治めた松山荘からこの名が残る。今は県道黒石三田線の道路敷きとなっている。

川除の武庫川改修 昭和 60 年代に武庫川改修工事のため、川除地区の武庫川ショートカット工事が行われた。この間の事情は「記念碑」に詳しい。

天満神社 有馬郡の総鎮守、「摂津名所図会」に三田神祠として紹介されている。九鬼家代々の祈禱所となる。

三田城跡 有馬高校付近に荒木氏の居城があった。後、山崎氏の城(これは古城)。九鬼家移封の時、二の丸などがあった。三田小学校付近に陣屋。

三田御池 もともと金心寺の泉水。九鬼家の陣屋に隣接し、水軍の訓練をしていたという。

金心寺跡 県立有馬高校中心に金心寺大伽藍(がらん)があったが、荒木村重の乱で焼失し、その後、屋敷町に移転、明治2年に現在地に移転した。有馬高校門内に礎石が残る。

三田大橋 三田市になって作られた道路と橋。大橋の周辺は浄水場の取水堰があり、九鬼水軍が訓練したという。明治初年篠山からの舟運の発着地。

九鬼家資料館 三田藩家老職の住宅で、現在のものは明治8年建築の擬洋風建築である。県指定文化財。資料館として公開されている。